

全国ネット通信

Vol.12
2013
秋号

平成25年10月1日発行

積み重なる科学の警告 IPCCが新報告書

共同通信社編集委員 井田 徹治



気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第1作業部会が、地球温暖化の現状や将来予測を盛り込んだ報告書を発表した。

「地球温暖化は疑う余地がない。大気や海の温度が上がる一方で、雪氷は減少。海面水位や大気中の二酸化炭素(CO₂)濃度も上昇している」—。6年ぶりの改定となった報告書は冒頭からこう切り出し、世界の政治家らに対策を急ぐよう警鐘を鳴らした。

IPCCは、人間活動が原因で地球温暖化が起きている可能性が「極めて高い」と分析。今世紀末の地球の平均海面水位は最近20年間と比べて最大82センチ上昇し、平均気温は最大4・8度上昇すると予測した。今世紀末には極端に暑い日が増え、熱波がより長くなり、頻度も増すと予測。中緯度のほとんどと、熱帯地域では、大雨がより極端になり回数も増えるとした。一方、乾燥地域ではより乾燥が進むと見込まれるという。

産業革命前からの気温上昇を2度未満に抑えるという世界共通の目標を高い確率で達成するには、19世紀終盤からのCO₂の累積排出量を1兆トン(炭素換算)に抑える必要がある。人類は5310億トンと既に半分を大気中に排出しており、このままでは2050～70年に許容量に到達してしまう。

科学者からの警告は何年も前から目の前に積み重なっているのだが、国際社会がそれを深刻に受け止めてきたとは言いがたい。中でも近年、日本の温暖化対策の後退は深刻だ。

IPCCが最初の報告書を発表した1990年からのデータは日本の温暖化対策の停滞を明確に示している。

経済成長は滞り、人口が減少に転じたにもかかわらず、エネルギー起源のCO₂の量は約10%も増え、1人当たりの排出量も増加した。「日本の省エネは世界一だ」などと言っているうちに、国内総生産(GDP)当たりの排出量でも欧州各国に追いつかれ、省エネ水準もほとんど差はなくなった。発電部門や業務関連の運輸部門、オフィスビルなどからの排出まで含めると、産業界全体の排出量は90年からほとんど変わっていない。

強力な省エネ規制や排出量取引などの規制策が導入されず、炭素税の実施も遅れた。CO₂排出量が多い石炭火力発電が拡大し、日本の電気の脱炭素化は進まなかつた。再生可能エネルギーの拡大や徹底した省エネによって、経済成長を達成しながら排出量を大幅に減らし、強靭な経済社会を築きつつあるドイツとは対照的だ。

東京電力福島第1原発事故の後、ドイツは再生可能エネルギー利用と省エネをさらに強化することで脱原発にかけを切ったのに対し、低炭素型経済への投資を怠ってきた日本は火力発電に頼らざるを得ず、燃料価格の高騰に苦しんでいる。

国内対策が進まなかつたために国際交渉でも前向きな態度が取れず、交渉での日本の発言力は大幅に低下した。

エネルギー起源のCO₂は排出総量の9割を超えるが、エネルギー消費で最も多いのは熱の形で、電気は3割に過ぎない。原発は事故前でも発電量の3割でしかないのだから「原発が止まったから削減目標の大幅な見直しが必要だ」などという議論は世界には通用しない。

温暖化の科学は明確だが、排出量取引や炭素税の拡大、再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度の拡充や発送電分離など今、何をしなければならないかも明確だ。

IPCCの第2作業部会が来年3月、横浜市で開かれる。「日本は科学者のメッセージを受け止め、先進国の一員として責任ある行動を取る」と、この場で明言できるようにしなければならない。これまで行動をサボってきたツケは大きい。やらねばならないことは多く、残された時間は少ない。行動を取るべき根拠はもう十分だ。今の日本に最も足りないものは、政治的意欲である。



地域特性を踏まえた 家庭からのCO₂排出の現状

◆分析の背景

今までの家庭の地球温暖化対策(CO₂排出量の削減)は「体重計のないダイエット」といった状態でした。しかし、平成23、24年度に環境省で実施されたうちエコ診断により、全国の受診家庭のCO₂排出量の特性が把握できるデータが集まりました。さらに、このデータを分析した結果、地域ごとのCO₂排出量の特性までも把握できるようになりました。

本誌面では平成24年度にうちエコ診断を受診された、5904世帯^{※1}の分析結果^{※2}の一部を紹介します。

△うちエコ診断データの注意点

うちエコ診断の受診者は、一般的な統計調査のような無作為抽出ではなく、環境問題や省エネに関心のある方が多く、標準的な家庭と比較してデータに偏りがある可能性があることを注意する必要があります。

◆うちエコ診断結果の全国平均から見た一世帯あたりのCO₂排出量の特徴

家庭における年平均CO₂排出量内訳は図1のとおり、車からのCO₂排出量が最も多く、次に暖房、給湯と続きます。

家庭における月平均光熱費・車燃料代は図2のとおり、車燃料代が最も多くなっており、それぞれ車に関連したものが全体の約40%を占める結果となっています。受診世帯の約85%が1台以上車を所有しており、家庭のCO₂排出量の削減及び家計の節約には車対策が効果的であると考えられます。

また、暖房及び給湯の使用が増える冬季の対策もCO₂排出量の削減に効果的であると考えられます。

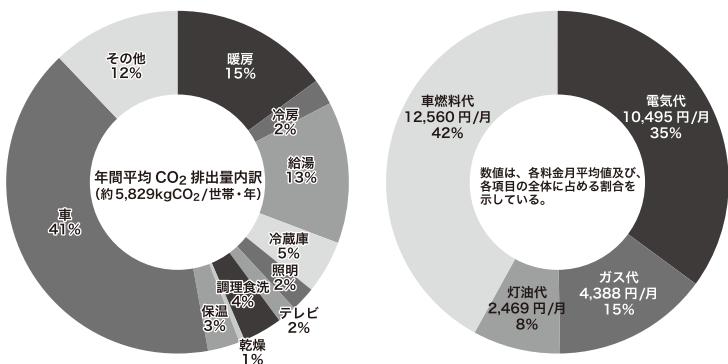


図1 平成24年度全国の一戸あたりの年平均CO₂排出量内訳

図2 平成24年度全国の一戸あたりの月平均光熱費・車燃料代内訳

◆地域特性が見える地域ごとのCO₂排出の特徴

一戸あたりの年平均CO₂排出量は、図3を見ると北海道地方が最も多く、次に中部、東北、中国地方と続きます。

図4を見ると暖房からのCO₂排出量も北海道、東北地方に多い傾向が見られる一方、図5を見ると冷房からのCO₂排出量は関東から九州・沖縄地方で多い傾向が見られました。これらの結果により、気候によるCO₂の排出特性を読みとることができます。

さらに、図3を見ると多くの大都市を擁する関東地方や近畿地方では一戸あたりのCO₂排出量が少ないことがわかり、大都市圏域とその他の地域の排出特性を読みとることができます。

すなわち、こうした分析により、うちエコ診断によって得られたデータから、気候ごと、地域ごとのCO₂の排出特性が把握できました。

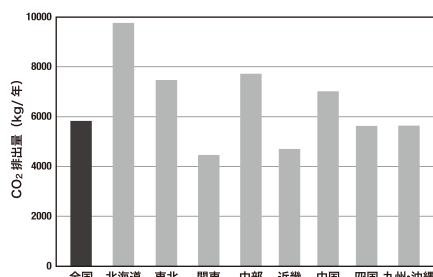


図3 平成24年度地方別の一戸あたりの年平均CO₂排出量

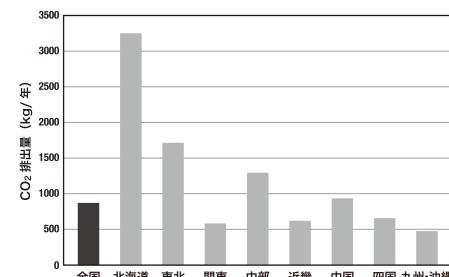


図4 平成24年度地方別の一戸あたりの暖房からの年平均CO₂排出量

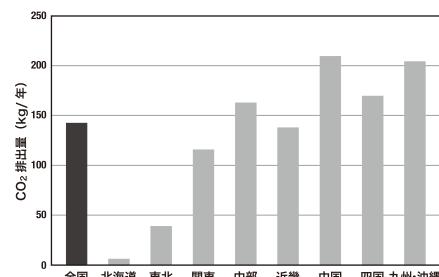


図5 平成24年度地方別の一戸あたりの冷房からの年平均CO₂排出量

◆うちエコ診断データの特徴とその価値

これまで、全国平均しか情報がなかった家庭からのCO₂排出量が、うちエコ診断によってその実態が明確になり、それらのデータを分析することで地域ごとのCO₂の排出特性も把握できるようになりました。このことで、各家庭の実態に即した具体的なCO₂排出量の削減対策を提案することが可能になりました。

今後は、地域特性の把握をより精度向上させるために全国的に受診世帯を広く確保し、継続的に行うことが重要であると考えられます。なお、JNCCAで行ったうちエコデータの分析結果は、JNCCAのWEBサイト内で随時紹介していく予定です。ぜひ、ご活用ください。

※1分析に適さないデータは省いた。実際は5955世帯に対してうちエコ診断を実施している。

※2結果は下記の都道府県及び市で実施したうちエコデータを分析したものである。また、各地方区分も下記に示す通りである。

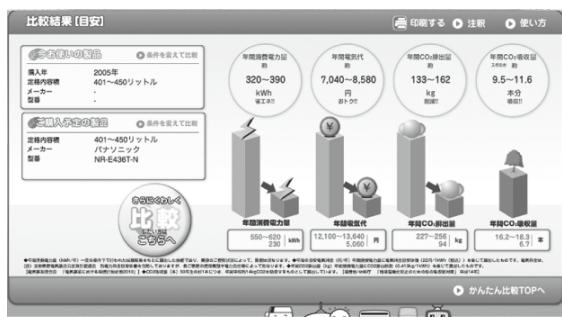
北海道地方：北海道 東北地方：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 関東地方：栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、川崎市 中部地方：新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県 近畿地方：三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山县 中国地方：鳥取県、島根県、岡山県、山口県 四国地方：徳島県、香川県、高知県 九州・沖縄地方：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、鹿児島県、沖縄県

しんきゅうさんをご活用ください！

家庭での消費電力が最も多いとされる、エアコン、冷蔵庫、テレビ、照明・器具、温水洗浄便座の買換えをお考えでしたら、ぜひ、省エネ製品買換ナビゲーション「しんきゅうさん」をご活用ください！

「しんきゅうさん」は、今お使いの家電製品から省エネ製品に買換えた場合の年間消費電力や電気代、CO₂排出量などを簡単に比較できるサイトです。

パソコンはもちろん、スマートフォンやタブレット端末からもご利用いただけます。



“着ぐるみ”を貸出しています！ 貸出ページ http://www.jccca.org/tool/list_etc/list_etc01.html

イベントや展示会でしんきゅうさんを活用してくださるところに「着ぐるみ」の貸出をしています！ ポストカードやノベルティなど、広報ツールもあわせて提供いたします。送料のみご負担ください。申込方法や送料などの詳細につきましては、ホームページをご覧いただくな、JCCA(事務局)までお問い合わせください。 JCCA(事務局) TEL:03-6273-7785



しんきゅうさんウェブサイトはこちら → <http://shinkyusan.com> しんきゅうさん 検索

低炭素杯2014開催



次世代に向けた低炭素な社会を構築するため、学校・家庭・市民団体・NPO・企業などの多様な主体が全国各地で展開している地球温暖化防止に関する地域活動を報告し、学びあい、連携の輪を広げる「場」として、低炭素杯を平成22年度から開催してきました。

この取組は、民間企業をはじめ、多くの方々の支援を受けて開催しています。低炭素杯は開催ごとにレベルが向上し社会的に高い評価を受け、その認知度も向上しています。そのため、低炭素杯を持続的に開催し、低炭素社会の構築に向けた地域連携の広がりと他のセクターとの連携をさらに強化していく必要があります。

こうした趣旨のもと、4回目となる「低炭素杯2014」を平成26年2月に開催いたします。低炭素社会の水平展開をより一層推進するため、皆様のご参加をお待ちしています。

日程	平成26年2月14日(金)・15日(土)	会場	東京ビッグサイト(国際展示場ほか)
2月14日(金) 13:00~19:00	・出場団体によるプレゼンテーションと審査 ・団体や来場者の交流会	2月15日(土) 13:00~16:00	・特別シンポジウム(パネルディスカッションなど) ・表彰式
対象部門	地域活動部門、学生活動部門、企業活動部門、パートナーシップ部門		
表彰予定	環境大臣賞 5団体(グランプリと各部門の金賞)ほか 最優秀グローバル賞 / ブリティッシュ・カウンシルより 最優秀地域活性化賞 / セブン-イレブン記念財団より 最優秀地域エコ活動賞 / 気象キャスターネットワークより 一般審査員賞 / 日本マクドナルドより 最優秀家庭エコ活動賞 / LIXILより 最優秀ストーリー賞 / オルタナより 最優秀次世代賞 / タカラトミーより など		

詳細は、ウェブサイトをご覧ください。<http://www.zenkoku-net.org/teitansohai2014/>

JICA中国連携プロジェクト

◆訪日意見交換

独立行政法人国際協力機構(JICA)による国別研修「市民参加による気候変動推進プロジェクト」の一環で、中華人民共和国の政府及び地方政府の方々 10名が9月11日に地球温暖化防止全国ネットを訪問しました。日本の家庭部門の気候変動対策や低炭素杯、うちエコ診断について活発に意見交換し、交流を深めました。

また、翌日12日は埼玉県地球温暖化防止活動推進センターを訪問、市民の気候変動対策活動について秋元智子事務局長らと活発な意見交換をしました。

◆烏魯木齊市(ウルムチ市)への派遣

訪日研修に続き、9月25日~26日にウルムチ市で開催された「市民参加による気候変動推進プロジェクト」研修会(参加者は各省環境部局担当者)に当法人より川原、廣瀬が講師として参加しました。

廣瀬は、低炭素杯を中心に「日本における民間活動の支援」について講演しました。中国では、本年12月に中国版「低炭素杯」を開催する計画があり、日本の取組み、特に高校生の活動が参考になったとの感想が寄せられました。

川原は、「うちエコ診断の概要及び現地診断結果の比較」について講演しました。

北京とウルムチ市的一般家庭を事前に訪問して、うちエコ診断を行い、現地の家庭と日本の家庭の比較を行いました。家庭のどこからCO₂が出ているのか等を見る化する点や、家庭の状況に応じた具体的な対策を提示する手法に注目が集まりました。

中国では、家庭における温暖化対策に本格的に取り組み始めたばかりであり、今回の派遣が家庭部門の削減の日本と中国の連携のきっかけになりました。



▲ウルムチ市でのうちエコ診断



▲「市民参加による気候変動推進プロジェクト」研修会での記念撮影

編集後記

中国で環境問題と言えば「PM2.5」。訪中したのは9月末、暖房の時期ではなく、大気汚染の心配はしていませんでした。しかし、ウルムチ市の視界は悪く、汚染の深刻さを垣間見ました。ウルムチ市は、経済発展では中国でもトップクラス、人口は300万人を超えていました。道路は車であふれ渋滞が発生し、原因は自動車のようです。冬になるとこれに暖房の煙が加わるとどうなるのか?市は予算を投入し、石炭を使った集中暖房から天然ガスに切り替えを進めているとのことでした。

企画調査グループ 廣瀬 健二

3R・低炭素社会検定

検定試験

試験日: 2014年1月12日(日) 試験会場: 全国11ヵ所
受験申請(予定): 2013年11月10日(日)まで

講習会

日程(予定): 2014年11月16日(土)~12月21日(土)
講習会場: 全国11ヵ所

低炭素社会分野 試験問題解説集販売中!

A4版 100頁 定価1,050円(送料別)



第6回3R・低炭素社会検定が、上記の日程で実施されます。それに伴い、各地で試験に向けた講習会が開催されます。詳細はウェブサイト(<http://www.3R-teitanso.jp/>)にてご確認ください。

お問い合わせ・お申込みは下記の3R・低炭素社会検定 検定事務センターへご連絡をお願いします。

3R・低炭素社会検定 検定事務センター

TEL: 06-6210-1720 (土、日、祝日を除く9時から17時まで)

FAX: 06-6210-1721

エコアナウンサー

櫻田彩子のミニコラム

櫻田 彩子 プロフィール
Sakurada Ayako Profile

宮城県出身のエコアナウンサー。
テレビ朝日「ゆうゆう散歩」レポーターほか、
低炭素杯の司会など。



私も
賛助会員
です!

異常気象の夏が過ぎ、肌感覚で「天気がおかしい」と感じた方が多かったのではないでしょうか。地球温暖化で竜巻やゲリラ豪雨等の気象災害の拡大を感じるのに十分過ぎる夏でした。

90年前の9月1日、10万5千人余の犠牲者を出した関東大震災。その犠牲者の9割近くが日本海側にあった台風による強風が要因の大火で命を奪われました。

地球温暖化による異常気象が、地震や津波と結びついたら、災害が複雑化するであろうことは容易に予想が出来ます。

空も大地も空気も、私達と繋がっています。一人一人の低炭素社会に向けた生活は、自然の猛威の前ではちっぽけに思えるかもしれません。でも、ハチドリの一滴のようにコツコツと行動に移せば、やっぱり効果は大きいものになります。科学や技術の力を借りながら、知恵と勇気のある人間を、信じたいと思います。



▲大震災を生きた銀杏



一般社団法人地球温暖化防止全国ネットの
活動をサポートしてください!

年会費:個人会員 1口 5,000円(1口以上) 団体会員 1口 20,000円(1口以上)



編集・発行



一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット(JNCCA)

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 第一アマイビル4階

TEL: 03-6273-7785 FAX: 03-5280-8100 <http://www.zenkoku-net.org/>



古紙パulp配合率100%再生紙を使用